様式第３号

資料2(3)

地域生活支援拠点事業実績報告書（令和2年度上半期）

施設名　中野学園

登録者の概要

登録者数	年度末	年度登録抹消	登録抹消者の登録抹消理由
	22人	2人	独居からサービス提供型住宅へ居住を移行した者とGH移行後不安定だった状況の改善を図ることができたので、登録を解除することとした。
	新規登録者数	前年度末	
	1人	23人	

登録者数の内訳

障害の程度	重　度	中　度	軽　度
身体障害	人	人	人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
知的障害	7人	7人	8人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
精神障害	人	人	人

難病	人
発達障害	人
高次脳機能障害	人
重症心身障害	人

年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	2人	2人	1人	2人	12人	3人	人

生活状況別	
アパート・マンション等で単身で生活	1人
同居している家族等が高齢または長期にわたる病気	14人
グループホーム・生活ホームに入居	2人
親と在宅生活する障害児	1人
配偶者と在宅生活する障害者	人
その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居　等 】 親子全員が知的障害	4人

コーディネーターの活動状況

登録者への支援方法

方　法	支援実人員	支援延回数
電話	24人	450回
家庭訪問	21人	130回
職場訪問	2人	2回
来所	6人	43回
他機関訪問	16人	52回
その他	人	回

主な支援内容

区　分	具体的内容
各種相談支援	弁護士、会計士等の要請。医療機関との調整。福祉ｻｰﾋﾞｽ利用
親離れ子離れの必要性の教化	家族以外の支援の構築。資源の説明。
対象者に関する緊急連絡先の調整	短期入所事業所、居宅介護事業所の確認
協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成	区内事業所への協力依頼働きかけ
対象者の地域における支援ネットワークの構築	小児科医や居宅事業所、学校及び自治会との連携構築
登録者への見守り支援（訪問・電話連絡）	定期的連絡の他,適宜訪問などを行った
その他	子育て支援

地域資源の活用

事　例	活用できた資源（成功事例）	活用でなかった資源（失敗事例）
親亡き後の独居を父が望むが目標に向かい適切な対応が図れる居宅事業所がない。	父親以外の支援者の関わりのため限定的な通所移動支援の支給	本人の公共物への落書きなどの問題行動に適切な支援が困難
子供達に十分な食事が与えられていない家庭。	子供たちの投稿する学校等と協力し食糧の提供を行う。	家族の強い反発あり調整困難。
国民健康保険滞納による、預金差し押さえのため、生活困窮となる	市内のフードバンクの利用や拠点事業からの直接支援	行政窓口などの対応猶予や通知方法の変更等の要望は叶わず
母子家庭において、母親の疾病による救急搬送。本人、当日より生活が継続できない	拠点コーディネーターが一晩対応後県内施設のSS依頼	母親の望む対応とSS先の対応が異なると虐防の通報を受ける

緊急時の対応実績報告								
	対応回数	58						
	障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
	身体障害		人		人		人	
	障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
	知的障害	2人		5人		6人		
	障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
	精神障害	人		人		人		
	難病	人						
	発達障害	人						
	高次脳機能障害	人						
	重症心身障害	人						
	年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
		1人	3人	1人	2人	3人	3人	人
	生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						2人
		同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						人
		グループホーム・生活ホームに入居						1人
		親と在宅生活する障害児						2人
		配偶者と在宅生活する障害者						人
		その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居 等 】 親と同居						6人
	発生事由	介護者の不在等による緊急連絡						1人
		本人の急病等による緊急連絡						2人
		急な予定による緊急のサービス利用						人
		災害等による緊急連絡						1人
		その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居 等 】 家族や家庭の事情						8人
	対応方法	コーディネーターの訪問により対応						1人
		緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施						1人
		電話連絡等により、本人の安否を確認						人
		救急車・警察等との連携を実施し、対応						1人
		その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居 等 】 空床や居宅事業等のコーディネート						13人

研修実施報告					
	開催回数	新型コロナウイルス禍のため実施できず		参加者数合計	
	日時		会議名	参加者数	
	日時		会議名	参加者数	
	日時		会議名	参加者数	

各種会議参加実績報告				
	出席回数			
	日時	4月20日	会議名	個別支援会議（千葉市児相　市立養護教諭等出席）
	日時	4月28日	会議名	個別支援会議（本人　居宅介護事業所　包括支援センター等出
	日時	5月12日	会議名	個別支援会議（特定相談事業所　居宅介護事業所等参加）
	日時	8月25日	会議名	個別支援会議（若葉区高齢障害支援課　援護課等出席）
	日時	9月14日	会議名	虐待通報対応会議（短期入所施設　若葉区高齢障害支援課等出

その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等

今年度新型コロナウイルス禍の中、当該事業の運営は大幅な計画変更を余儀なくされることとなった。相談事業においては個別の訪問や支援会議の開催等が思うようにできなかったり、緊急対応については空床利用が適わなかったりする事象等が発生した。また、緊急対応については、ご家族が期待した支援内容と実際に提供されたサービスとの齟齬が発生し「虐待通告」を受ける案件が発生。実際には虐待認定はされなかったものの、緊急時の対応の大きな課題の一つとして今後の検討を要するものと考える。さらには人材育成研修などについても開催できずにきた。このように様々に生じる課題について、昨年度自立支援協議会において当該事業の見直しに掛かる作業部会が設置され検討されたものを今後も継続することが重要であろうと考える。

様式第３号

資料2(3)

地域生活支援拠点事業実績報告書（令和2年度下半期）

施設名　中野学園

登録者の概要

登録者数	年度末	年度登録抹消	登録抹消者の登録抹消理由
	23人	1人	他市事業所における計画相談及びGH入居となったため20代女性を登録抹消とした。
	新規登録者数	前年度末	
	2人	22人	

登録者数の内訳

障害の程度	重　度	中　度	軽　度
身体障害	人	人	人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
知的障害	7人	7人	9人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
精神障害	人	人	人
難病	人		
発達障害	人		
高次脳機能障害	人		
重症心身障害	人		

年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	2人	2人	2人	2人	12人	3人	人

生活状況別	
アパート・マンション等で単身で生活	4人
同居している家族等が高齢または長期にわたる病気	12人
グループホーム・生活ホームに入居	2人
親と在宅生活する障害児	1人
配偶者と在宅生活する障害者	人
その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居　等 】 親子全員が知的障害	4人

コーディネーターの活動状況

登録者への支援方法

方　法	支援実人員	支援延回数
電話	25人	433回
家庭訪問	23人	120回
職場訪問	2人	2回
来所	6人	8回
他機関訪問	16人	55回
その他	人	回

主な支援内容

区　分	具体的内容
各種相談支援	弁護士、会計士等の要請。医療機関との調整。福祉ｻｰﾋﾞｽ利用
親離れ子離れの必要性の教化	家族以外の支援の構築。資源の説明。
対象者に関する緊急連絡先の調整	短期入所事業所、居宅介護事業所の確認
協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成	区内事業所への協力依頼働きかけ
対象者の地域における支援ネットワークの構築	小児科医や居宅事業所、学校及び自治会との連携構築
登録者への見守り支援（訪問・電話連絡）	定期的連絡の他,適宜訪問などを行った
その他	子育て支援

地域資源の活用

事　例	活用できた資源（成功事例）	活用でなかった資源（失敗事例）
養護学校生。父親脳卒中となり心肺停止状態で救急搬送。空床利用するが通学叶わず。	拠点空床利用にて、父の闘病中は生活は安定する。	通学手段が確保できず、短期利用中は欠席
子供達に十分な食事が与えられていない家庭。	子供たちの投稿する学校等と協力し食糧の提供を行う。	家族の強い反発あり調整困難。
国民健康保険滞納による、預金差し押さえのため、生活困窮となる	市内のフードバンクの利用や拠点事業からの直接支援	行政窓口などの対応猶予や通知方法の変更等の要望は叶わず
母子家庭において、母親の末期がん判明。2ヵ月あまりのﾎｽﾋﾟｽ利用後逝去。	市内GHが母親入院中より、本人受入れ準備対応を行う。	母親逝去のダメージがことのほか大きく、精神的な支えの支援の課題が残っ

緊急時の対応実績報告							
対応回数	58						
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
身体障害		人		人		人	
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
知的障害		2人		5人		6人	
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
精神障害		人		人		人	
難病	人						
発達障害	人						
高次脳機能障害	人						
重症心身障害	人						
年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	1人	3人	1人	2人	3人	3人	人
生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活					2人	
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気					人	
	グループホーム・生活ホームに入居					1人	
	親と在宅生活する障害児					2人	
	配偶者と在宅生活する障害者					人	
	その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居 等 】 親と同居					6人	
発生事由	介護者の不在等による緊急連絡					1人	
	本人の急病等による緊急連絡					2人	
	急な予定による緊急のサービス利用					人	
	災害等による緊急連絡					1人	
	その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居 等 】 家族や家庭の事情					8人	
対応方法	コーディネーターの訪問により対応					1人	
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施					1人	
	電話連絡等により、本人の安否を確認					人	
	救急車・警察等との連携を実施し、対応					1人	
	その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居 等 】 空床や居宅事業等のコーディネート					13人	

研修実施報告					
開催回数	新型コロナウイルス禍のため実施できず			参加者数合計	39名
日時	3月4日	会議名	（研修）相談業務の基本的対応①	参加者数	39名
日時		会議名		参加者数	
日時		会議名		参加者数	

各種会議参加実績報告			
出席回数			
日時	10月7日	会議名	個別支援会議（緑区支援課　こども支援課　市立養護教諭等出
日時	1月6日	会議名	個別支援会議（若葉区高齢障害支援課　援護課等出席）
日時	1月13日	会議名	個別支援会議（本人　居宅介護事業所　包括支援センター等出
日時	1月6日	会議名	個別支援会議（若葉区高齢障害支援課　援護課等出席）
日時	2月10日	会議名	個別支援会議（若葉区高齢障害支援課　市養護　出席）

その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等

本年度後期より、各区基幹相談センターの立ち上がりに伴い事業開始前後における空床対応の要請件数が続く傾向が見られた。内容的には本人の思いや将来的な対応を熟考すれば、緊急対応よりも中長期的支援計画の中での対応が望まれるものが多く、相談を頂いた事業所等には改めて本事業の趣旨と目指す支援の方向性の確認を行い他機関での対応をお願いすることとした。また、当該期間において2件の養護学校在校生の親の逝去に伴う緊急ケースを空床利用で対応した。しかし、両ケース共に40歳代親の急逝と言ったケースで、本人の気持ちの不安定さが顕著に見られ、対応方法や期間なども大変苦労することとなり、空床対応後のケアについても継続して入居先のGHと連携して対応することとした。

様式第３号

資料2(3)

地域生活支援拠点事業実績報告書（令和2年度下半期）

施設名　若葉泉の里

登録者の概要

登録者数	年度末	年度登録抹消	登録抹消者の登録抹消理由
	4人	0人	
	新規登録者数	前年度末	
	人	人	

登録者数の内訳

障害の程度	重　度	中　度	軽　度
身体障害	3人	人	人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
知的障害	1人	人	人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
精神障害	人	人	人

難病	人
発達障害	人
高次脳機能障害	人
重症心身障害	人

年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	人	人	人	3人	人	1人	人

生活状況別	
アパート・マンション等で単身で生活	人
同居している家族等が高齢または長期にわたる病気	5人
グループホーム・生活ホームに入居	4人
親と在宅生活する障害児	人
配偶者と在宅生活する障害者	人
その他（具体的に）【　例：親と同居、兄弟と同居　等　】	人

コーディネーターの活動状況

登録者への支援方法	方　法	支援実人員	支援延回数
	電話	4人	6回
	家庭訪問	8人	7回
	職場訪問	人	回
	来所	1人	2回
	他機関訪問	2人	2回
	その他	人	回

主な支援内容	区　分	具体的内容
	各種相談支援	・体制的利用希望の為、ご本人の状況を伺いに1月訪問調整
		・手帳未取得者に対する拠点利用の問合せあり、住所地基幹センターへ情報提供し対応していただく。
	親離れ子離れの必要性の教化	・親（母）と子（30代）で2人暮らし、母の介護疲れもあるため母子が離れる環境を準備
		・お母様の介護疲れ、はなれることのメリットについてお話
		・介護者（母）との関係性・様子観察・聞き取り
	対象者に関する緊急連絡先の調整	
	協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成	・担当計画相談員・緊急受入れ可能施設面談調整
	対象者の地域における支援ネットワークの構築	・ヘルパー事業所との連携強化
	登録者への見守り支援（訪問・電話連絡）	・様子の聞き取り
	その他	・ヘルパー事業所との顔合わせ等、拠点事業に関する業務

	事　　例	活用できた資源（成功事例）	活用でなかった資源（失敗事例）
地域資源の活用	緊急での地域包括ケア病棟への入院	医療での一時保護	福祉施設での短期入所
	知的・母子家庭世帯への支援	日中一時支援活用	福祉施設の短期入所
	若葉区計画相談事業所より：父が入院（危険な状態）、母も発達障害あり、ご本人の面倒を見られない、拠点の空床活用ができないかと相談あり。	中野学園・拠点コーディネーター江澤氏へ確認⇒対応可とのこと、（空床が一人空いた、学校（市立）とも連携できるケースでありスムーズに活用できた。）（放課後デイの事業所さんもとても協力的であった。	
	手帳未取得者（親が手続きをしていなかった）明らかに障害が疑われる。		拠点の空床利用不可（手帳がないため）⇒中央区基幹センターへつなぎ「やむをえない措置」について議論がなされた。

緊急時の対応実績報告

対応回数	23 回						
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
身体障害	2人		人		人		
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
知的障害	3人		人		人		
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
精神障害	人		人		人		
難病	人						
発達障害	人						
高次脳機能障害	人						
重症心身障害	人						
年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	人	1人	1人	2人	人	1人	人

生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活	1人
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気	3人
	グループホーム・生活ホームに入居	人
	親と在宅生活する障害児	人
	配偶者と在宅生活する障害者	人
	その他（具体的に）【　例：親と同居、兄弟と同居　等　】 ・交際相手と同居	1人
発生事由	介護者の不在等による緊急連絡	3人
	本人の急病等による緊急連絡	1人
	急な予定による緊急のサービス利用	人
	災害等による緊急連絡	人
	その他（具体的に）【　例：親と同居、兄弟と同居　等　】	1人
	・同居中の交際相手からのDV	人
対応方法	コーディネーターの訪問により対応	3人
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施	3人
	電話連絡等により、本人の安否を確認	2人
	救急車・警察等との連携を実施し、対応	1人
	その他（具体的に）【　例：親と同居、兄弟と同居　等　】	1人
		人

研修実施報告	開催回数	1回			参加者数合計	39
	日時	3月4日	会議名	(研修)相談業務の基本的対応①	参加者数	39
	日時		会議名		参加者数	
	日時		会議名		参加者数	
	日時		会議名		参加者数	
	日時		会議名		参加者数	

各種会議参加実績報告	出席回数	18回		
	日時	10月14日	会議名	中央区相談支援意見交換会
	日時	10月15日	会議名	千葉市の相談支援体制について
	日時	10月20日	会議名	地域ケア会議(民生委員さんとの連携強化)
	日時	10月27日	会議名	若葉区地域部会
	日時	11月12日	会議名	中央区相談支援意見交換会
	日時	11月17日	会議名	千葉市3拠点事業所意見交換会
	日時	11月19日	会議名	千葉市自立支援協議会運営事務局会議
	日時	12月8日	会議名	中央区相談支援意見交換会
	日時	12月16日	会議名	緑区相談支援意見交換会
	日時	12月17日	会議名	千葉市3拠点事業所意見交換会
	日時	1月15日	会議名	中央区相談支援意見交換会
	日時	1月20日	会議名	千葉市3拠点事業所意見交換会
	日時	2月2日	会議名	若葉区地域部会(書面開催)
	日時	2月19日	会議名	千葉市3拠点事業所意見交換会(Zoom会議)
	日時	2月27日	会議名	障害福祉サービスの報酬改定勉強会(Zoom開催)
	日時	3月4日	会議名	千葉市3拠点事業所意見交換会
	日時	3月5日	会議名	基幹相談支援センター訪問(稲毛区・花見川区)
	日時	3月30日	会議名	基幹相談支援センター訪問(緑区・若葉区)

その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等

- 11月よりワーナーホームさんが拠点事業を千葉市より受託された。3拠点で連絡会(意見交換会)を実施し、千葉市で生活されている方々にとってより良い事業活動を目指したい。
- 拠点が始まり2か月が経過したが、登録者をどのように決定していくか、疑問点も出ているため、千葉市含め3拠点の意見交換会・すり合わせがとても重要と感じる。
- コロナウイルス感染者が増えていく中で緊急時の受け入れ態勢(空床利用)をどのようにしたらよいかの課題が出ている。(早期PCR検査、結果まで)
- 身体障害をお持ちの方で、短期入所を利用したことのない人をピックアップして、体験をしておいてもらうことを進めていきたい。(登録を進めていく)
- 1月～は計画相談事業所との連携を強化し、隠れたﾆｰｽﾞ、地域に隠れた利用者さんのほりおこしを行っていければと思う。
- 1月に入り緊急事態宣言が発令された。1月は登録利用者さんの在宅の様子を関係機関と連絡調整を行った。拠点の空床利用については、コロナ感染拡大の影響もあり受け入れは慎重にという施設側の意向も強い。自宅等で緊急事態にどう生活していくか、地域の相談支援事業所の計画相談員さんとの連携も強化していく必要がある。
- 2月も引き続き緊急事態宣言継続中、会議などはZoomでの開催も多くなった。緊急事態での対応では、若葉区の計画相談事業所より緊急の顔合わせがあり、知的障害の方でしたので、中野学園拠点コーディネーターへつなぎ、対応可能とのことで相談事業所と調整を行った。空床利用に関する理解を促すとともにタイミング・アセスメント(本人の状況)をしっかりと伝えていただくこと、担当の相談員さんがある程度中心となり隙間のケアをしていただくことも大切であり、受け入れ側施設も安心すると感じました。(今回の担当相談員さんは、荷物をとどけてくれたりと、とても積極的にかかわってくれていました。)ありがたかったです。
- 3月に入り、基幹相談支援センターとの連携ということで、稲毛区・花見川区を3月5日に、3月30日に緑区・若葉区を訪問させていただいた。ケースを通じてどのようなニーズがあるのか、対応できることできないことを一緒に考えていくことが大切だと思った。また、拠点に関する誤解、どういう状況なら空床利用が可能かということの確認ができた。空床利用の問題コロナ禍の中でなかなか受け入れ時の困難さがあるということは、今後課題として考えなければならないことだと共通認識を持った。

地域に拠点となる場所を面的整備で整えていくことが、千葉市としての課題である。

様式第３号

資料2(3)

地域生活支援拠点事業実績報告書（令和2年度下半期）

施設名　鎌取相談支援センター

登録者の概要

登録者数	年度末	年度登録抹消	登録抹消者の登録抹消理由
	8 人	0 人	
	新規登録者数	前年度末	
	8 人	0 人	

登録者数の内訳

障害の程度	重　度	中　度	軽　度
身体障害	人	1 人	人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
知的障害	1 人	1 人	1 人
障害の程度	重　度	中　度	軽　度
精神障害	人	5 人	人

難病	人
発達障害	（児童）　1人
高次脳機能障害	人
重症心身障害	人

年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	人	1人	2人	1人	2人	2人	人

生活状況別	
アパート・マンション等で単身で生活	人
同居している家族等が高齢または長期にわたる病気	7 人
グループホーム・生活ホームに入居	人
親と在宅生活する障害児	1 人
配偶者と在宅生活する障害者	人
その他（具体的に）【 例：親と同居、兄弟と同居　等 】	人

コーディネーターの活動状況

登録者への支援方法	方　法	支援実人員	支援延回数
	電話	5 人	33 回
	家庭訪問	1 人	2 回
	職場訪問	人	回
	来所	7 人	14 回
	他機関訪問	1 人	1 回
	その他	4 人	28 回

主な支援内容	区　分	具体的内容
	各種相談支援	拠点事業登録に至る相談全般
	親離れ子離れの必要性の教化	
	対象者に関する緊急連絡先の調整	緊急短期入所受け入れ調整
	協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成	基幹相談支援センターとの情報交換会（4区）
	対象者の地域における支援ネットワークの構築	
	登録者への見守り支援（訪問・電話連絡）	近況・様子伺い・本人からの電話相談
	その他	体験のための短期入所利用調整

地域資源の活用	事　例	活用できた資源（成功事例）	活用でなかった資源（失敗事例）

緊急時の対応実績報告							
対応回数	8回						
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
身体障害		人		人		人	
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
知的障害		人		人		人	
障害の程度	重　度		中　度		軽　度		
精神障害		人	2	人		人	
難病	人						
発達障害	（児童）　1人						
高次脳機能障害	人						
重症心身障害	人						
年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
	人	1人	人	2人	人	人	人
生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						人
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気					2	人
	グループホーム・生活ホームに入居						人
	親と在宅生活する障害児					1	人
	配偶者と在宅生活する障害者						人
	その他（具体的に）　【　例：親と同居、兄弟と同居　等　】						人
発生事由	介護者の不在等による緊急連絡					3	人
	本人の急病等による緊急連絡						人
	急な予定による緊急のサービス利用						人
	災害等による緊急連絡						人
	その他（具体的に）　【　例：親と同居、兄弟と同居　等　】 ※本人の不安や、家族とのトラブル（関係悪化）による相談					5	人
							人
対応方法	コーディネーターの訪問により対応						人
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施						人
	電話連絡等により、本人の安否を確認						人
	救急車・警察等との連携を実施し、対応						人
	その他（具体的に） ※緊急による短期入所の利用					8	人
							人

研修実施報告						
開催回数	1回				参加者数合計	39名
日時	3月4日	会議名	（研修）相談業務の基本的対応①		参加者数	39名
日時		会議名			参加者数	
日時		会議名			参加者数	
日時		会議名			参加者数	
日時		会議名			参加者数	

各種会議参加実績報告			
出席回数	計13回		
日時	11/12・3/11	会議名	千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連携会議
日時	11/17・12/17 1/20・2/19	会議名	千葉市3拠点連絡会
日時	11/19・2/5 3/23	会議名	千葉市自立支援協議会運営事務局会議
日時	11/30・12/16 3/17	会議名	千葉市自立支援協議会緑区地区部会
日時	1/14	会議名	千葉県精神障害者家連合会関東ブロック大会

その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等

※　上記以外に基幹相談支援センターから緊急短期入所の相談（4回）あり、3件は受け入れ可と回答するも利用につながらず。1件は空室が他の緊急短期利用と体験の利用で埋まっていたため断った。

※　緊急短期入所の相談につながる事由として、自身の不安や不調によるものの他に、家族からのDVや家族とのトラブルなどが傾向として見られる。

※　しかし、本人が納得しないことから急な利用にはつながらないケースも多いため、基幹相談支援センターとの日頃の連携により、緊急に備えた事前の見学や短期入所事業所職員との顔合わせ、緊急に備えた体験宿泊などが必要であることも分かった。